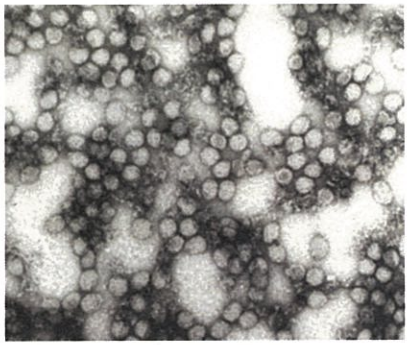
資料10

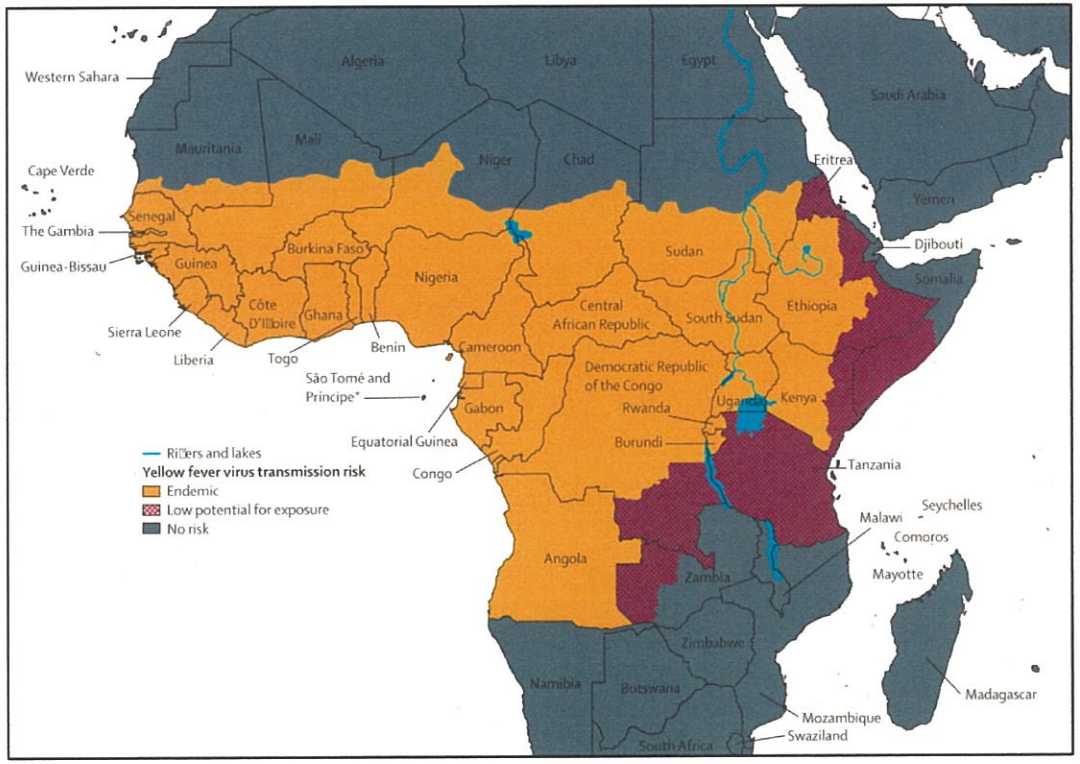
黄熱 (Yellow Fever)とは

- フラビウイルス属黄熱ウイルス（ジカ、デングウイルスなどと近縁のウイルス）による感染症
- ネッタイシマカなどの蚊によって媒介される
- 大半の感染者は全く症状を呈さないか、軽い症状のみ
- 発病者は、3-6日目に発熱、悪寒などの症状を呈し、うち15%が重篤化
- 重篤化した患者の場合、20-50%の患者が死亡
- 感染症法 四類感染症に指定
- 流行地では、毎年20万人が罹患し、3万人が命を落とす
- 黄熱ワクチンの予防接種により予防可能
- 流行地に渡航する場合、渡航先によっては、黄熱予防接種の接種証明書の提示が必要
（アンゴラは9ヶ月以上のすべての渡航者に提示を要求）



出典: Control of Communicable Disease Manual 20 ed., APHA 2014

現在の黄熱のリスク地域

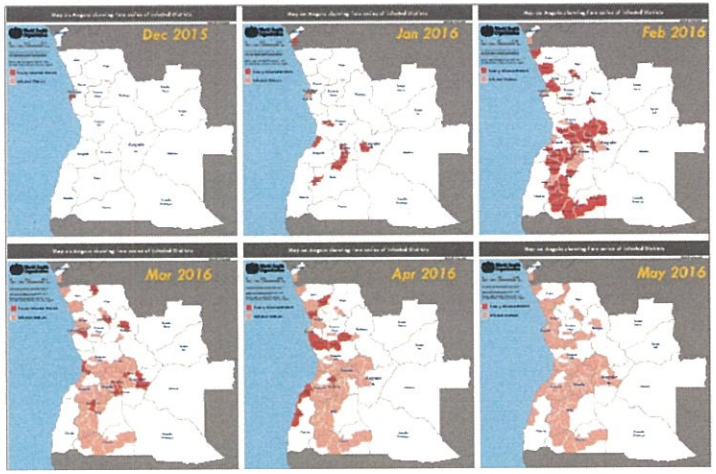


- サハラ以南アフリカ
  （南部アフリカを除く）
- 北中部南アメリカ
  （主にアマゾン地域）

Jentes ES et al., *Lancet Infect Dis.* 2011;11:622-32.

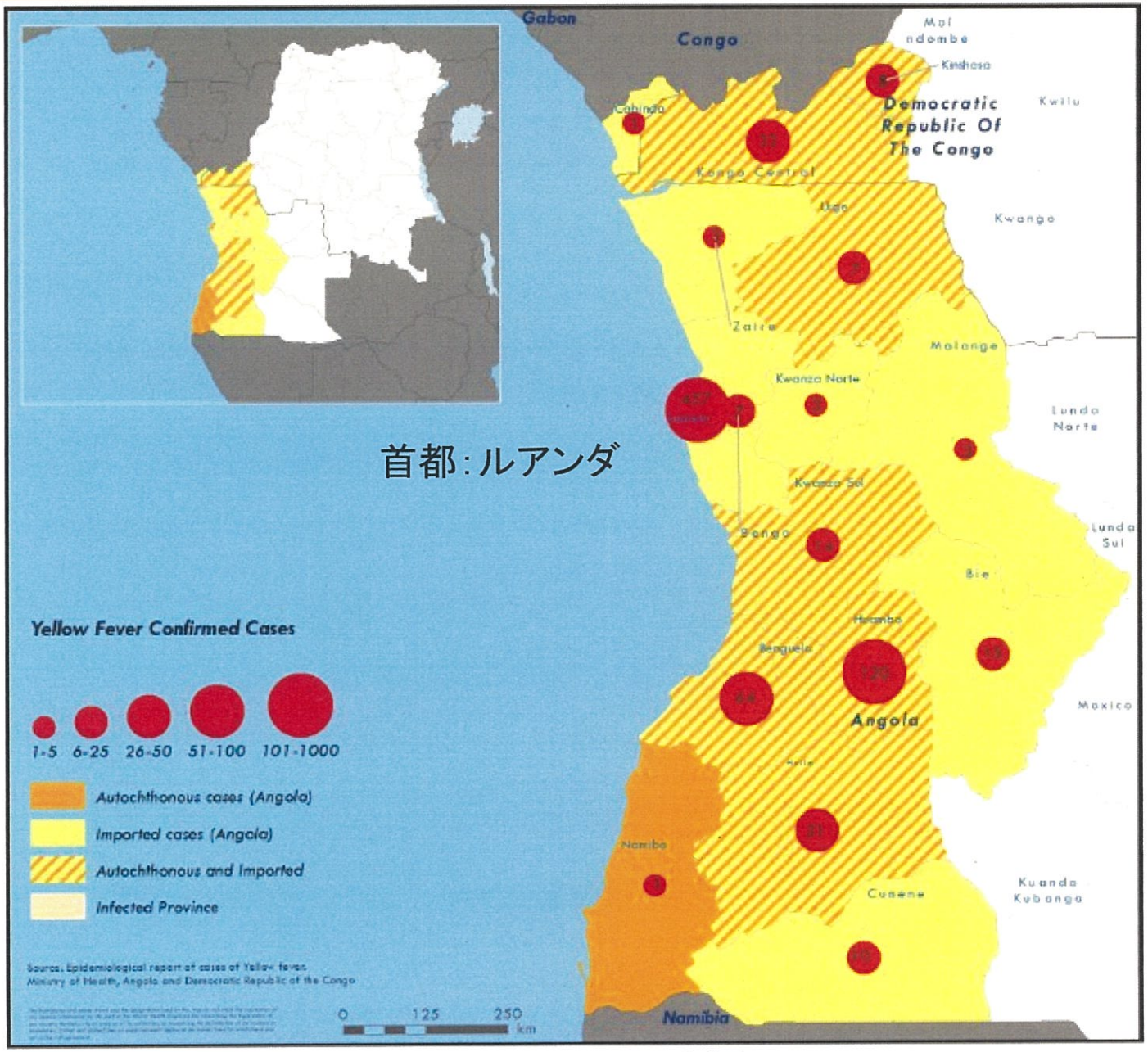
アンゴラ・コンゴ民主共和国における発生状況

- 黄熱は4類感染症に指定されているが、これまでに海外で感染した例を含め、国内において報告はない。
- 2015年12月以降、アンゴラの首都ルアンダを中心に、都市型サイクルのアウトブレイクが報告され、患者数が急速に増加しており、2016年5月19日までに2420例の疑い例、298例の死亡例が報告されている。
- コンゴ民主共和国(DRC)では2016年3月22日にアンゴラからの輸入例を確認し、4月23日に黄熱のアウトブレイクを宣言した。5月19日現在、49例のアンゴラに疫学的リンクのある症例が報告されており、うち42例はアンゴラからの輸入例である。
- このほか、首都キンシャサ及びコンゴ中央州において少なくとも8例以上、DRCでの国内発生を疑う例が発生している。
- アンゴラ、DRC以外では、5月11日現在、中国で11例、ケニアで2例のアンゴラからの輸入例が報告されている。
- なお、ウガンダにおいても黄熱患者の発生が見られるが、こちらは遺伝子学的検査からアンゴラとの関連性は否定されている。



出典：WHO Yellow Fever Situation Report, 20 May 2016

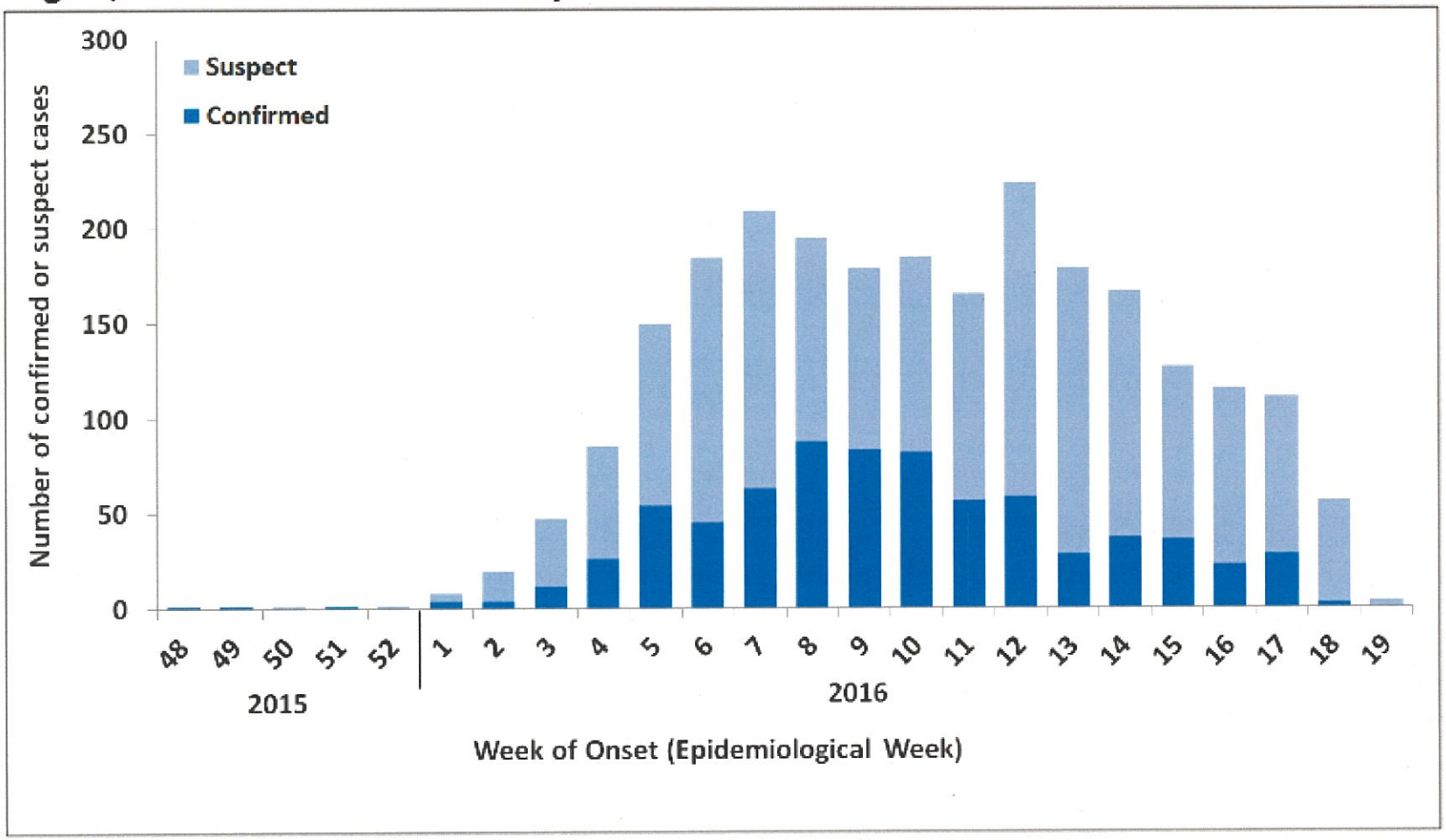
アンゴラでの発生状況



出典: WHO Yellow Fever Situation Report, 20 May 2016

アンゴラにおける黄熱患者数の推移

Figure 3. National weekly number of suspected and confirmed yellow fever cases in Angola, 5 December 2015— 15 May 2016



Data provided by Angola yellow fever situation report as of 15 May 2016.[2] *Data for the last two weeks is incomplete due to lags between onset of symptoms and reporting.*

WHO yellow fever situation report 20 May 2016 (20 May 2016 公表)

諸外国・国際機関の対応

＜アンゴラ＞

・2015年12月に黄熱患者の発生を確認

・2016年1月21日にWHOの黄熱アウトブレイクの発生を通報

・2月3日より、首都ルアンダを中心に予防接種キャンペーンを開始

・5月11日までに約700万人に接種を実施したが、カバー率は不十分な状況

・5月12日までに約240万人分のワクチンを追加し、5月15日から接種を開始

＜WHO（世界保健機関）＞

・2016年2月より予防接種キャンペーンを開始

・5月12日、ウェブサイト上で黄熱に関するSituation Reportの報告を開始。

・リスクアセスメントで、高い懸念を表明

予防接種キャンペーンに関わらず、首都ルアンダにおける伝播が止まっておらず、以前拡大傾向が続いていること、隣国との国境は厳格ではなく、隣国に拡大する危険性が高いこと、サーベイランス機能が限定的であり、迅速な対応に限界があることを指摘

・5月19日、世界保健機関（ WHO ）の IHR 緊急委員会において、黄熱に係る対応に関する WHO ステートメントが発表され、加盟国に対して、アンゴラ及びコンゴ民主共和国に出入国する者に黄熱の予防接種を受けるよう促した。

日本の対応

〇国内

・国立感染症研究所にてアンゴラの黄熱に関する国内侵入に関するリスクアセスメントを実施（5月19日）

・自治体にWHOの提言や参考情報に関する情報提供のための事務連絡を発出（5月20日）

・厚労省HPに黄熱の情報提供ページを新設し、Ｑ＆Ａや流行状況等に関する情報を掲載（5月20日）

〇検疫

・検疫所の渡航者向けHPにて、アンゴラでの流行状況、コンゴ民主共和国、中国、ケニアでの輸入例の発生状況に関する情報提供と渡航者への注意喚起を実施

・国内の検疫所等において、黄熱ワクチンの接種及び接種証明書を発行

・検疫における注意喚起のためのポスター・リーフレットの作成と出入国者への呼びかけ

・外務省海外安全HPにおいて感染症危険情報の発出（5月20日）

事　務　連　絡
平成 27 年 11 月 9 日

各　検疫所　御中

検疫所業務管理室

平成 28 年 7 月 11 日以降の黄熱予防接種に関するＱ＆Ａについて

第 67 回ＷＨＯ総会で黄熱予防接種に関する国際保健規則（ＩＨＲ）附録の改定が採択され、黄熱ワクチンの接種証明書の有効期限が、10 年から生涯有効へ延長される考え方が採用されました。この要件は平成 28 年 7 月 11 日から効力を持ちます。

今般、平成 28 年 7 月 11 日以降の黄熱予防接種に関するＱ＆Ａを別添のとおり取りまとめたので、業務の参考として送付いたします。

なお、当該Ｑ＆Ａは平成 27 年 11 月 9 日現在の情報に基づく解釈であり、ＷＨＯから新しい情報が発信されましたら更新される可能性がございますので、あわせてお伝えいたします。

別添

平成28年7月11日以降の黄熱予防接種に関するQ＆Aについて（平成27年11月9日版）

問1　黄熱予防接種に関するWHOの採択事項は。

(答)平成28年7月11日より、黄熱ワクチンを接種し取得した証明書は生涯有効になる旨、WHO総会で採択されている。

問2　以前に交付した証明書について、永年で有効となるか。

(答) WHOの決議より、既に取得済みの証明書（期限切れの証明書を含む。）は、平成28年7月11日より、自動的に延長した有効期限（生涯）になると解釈することができる。

問3　現在期限切れの証明書は、平成28年7月11日まで有効な証明書として扱われるか。

(答) 一部の国では、黄熱予防接種証明書の取扱いについて既に新しい要件（生涯有効）で対応を始めていることから、期限切れでも有効な場合がある。ただし、渡航する国の大使館または領事館に確認が必要である。

問4　黄熱予防接種証明書の再発行は接種時から何年後までか。

(答) 証明書の再発行についてIHRでは規定がない。これまで接種時から10年後まで予防接種証明書を再発行しているので、同様の対応を予定している。